



2025年7月22日

各 位

会 社 名 日 本 曹 達 株 式 会 社  
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 阿 賀 英 司  
(コード番号 4041 東証プライム)  
問 合 せ 先 総 務 部 長 片 岸 豊 信  
(TEL 03-6366-1920)

## 九州大学隣接の「いと Lab+」に先端材料研究拠点を開設

～先端材料分野の新規事業創出に向けた研究開発体制を強化～

当社は、研究技術戦略「Brilliance through Chemistry 2030」に基づく新規事業創出の一環として、九州大学に隣接するインキュベーション施設「いと Lab+ (いと・らぼ・ぷらす)」(福岡県福岡市西区)に新たな研究拠点を開設しましたのでお知らせいたします。



「いと Lab+」全景

記

### 1. 開設の目的

当社は研究技術戦略「Brilliance through Chemistry 2030」において、先端材料分野を新規事業のターゲットドメインの一つとして設定しております。本研究拠点では、有機半導体分野における材料開発、特に有機 EL ホスト材料や有機薄膜太陽電池の電荷移動層などに注力し、成長市場における新たな事業機会の創出を目指しております。

## 2. 「いと Lab+」の特徴と意義

「いと Lab+」は、研究施設や商業施設、店舗、賃貸住宅で構成される複合研究開発次世代拠点です。九州大学から徒歩 10 分程度の場所に位置し、大学の高度な研究設備や評価機器を活用しやすい環境にあります。当社は九州大学の研究者との密接な連携により、先端材料分野における技術革新と製品開発の加速を図っております。

特に九州大学高等研究院の安田琢磨教授との有機半導体・有機薄膜型太陽電池に関する共同研究を行いながら次世代の有機半導体材料の開発を進めてまいります。

研究開発棟外観



## 3. 産学連携とスタートアップとの協業

当社は本研究拠点において、九州大学の研究者との共同研究に加え、有機 EL 材料開発で実績のあるスタートアップとの協業も進めてまいります。パートナー企業は次世代有機 EL 材料の開発に強みを持っており、これまでの協業関係を活かしながら、特に蛍光青色に適合するホスト材料など、市場ニーズの高い材料開発を推進いたします。

また、研究施設の効率的な運用においても、同施設の保有する設備の一部活用を予定しており、スピーディーな研究体制の構築を目指しております。

## 4. 今後の展開

当社は本研究拠点に研究員を配置し、九州大学の研究者とのディスカッションを通じて新規事業の有望テーマを創出してまいります。また、福岡市や九州大学 OIP (OPEN INNOVATION PLATFORM)、OPACK (公益財団法人九州大学学術研究都市推進機構) などとも連携し、オープンイノベーションを推進してまいります。

有機 EL 市場は 2028 年に数千億円規模に成長すると予測されており、特に青色系ホスト材料など注目度の高い分野での製品開発を加速させてまいります。また、年間約 10% の成長が期待される有機太陽電池市場においても、当社の技術を活かした材料開発を進めてまいります。

当社は今後も、研究技術戦略『Brilliance through Chemistry 2030』のもと、化学の力で社会課題の解決に貢献する新たな価値創造に取り組んでまいります。

### 【「いと Lab+」概要】



名称	「いと Lab+ (いと・らぼ・ぷらす)」
所在地	福岡県福岡市西区九大新町 5 番 1 他
交通	JR 筑肥線「九大学研都市駅」より昭和バスにて約 9 分 「産学連携交流センター」下車すぐ
敷地面積	31,224.68 m <sup>2</sup>
開業日	2023 年 4 月 8 日
運営	大和ハウス工業株式会社・西部ガス都市開発株式会社
用途	商業棟、店舗棟、物販棟、賃貸住宅棟、研究開発棟

以上